

## NEWS LETTER (調査レポート)

ソニー生命調べ／大学生以下の子どもがいる20歳以上の男女1,000名にアンケート  
**子どもの教育資金に関する調査 2024**

**「子どもが希望するなら、多少費用がかさんでも大学等へ進学させたい」親の8割半**

**「子どもの教育資金に不安を感じる」親の8割半、不安を感じる理由「物価の上昇」がダントツ**

**小学生から社会人になるまでに必要な教育資金  
平均予想金額は1,439万円、調査開始以来の最高額を更新！**

**子どもに目指してほしい“理想の大人” 有名人では1位「大谷翔平さん」**

**自分の子どもに就いてほしい職業 男子・女子の親ともに1位は「公務員」**

ソニー生命では、教育資金に関する意識と実態を明らかにするため、今年で11回目となる「子どもの教育資金に関する調査」を行いましたので、お知らせいたします。

### ■ POINT 1

**⇒「子どもが希望するなら、多少費用がかさんでも大学等へ進学させたい」親の8割半**

全回答者(1,000名)に、子どもの大学等(大学・短期大学・専門学校、以下同様)への進学に関する意識について聞いたところ、「(子どもが希望する場合)多少費用がかさんでも進学させたい(計)」「(非常に)と「やや」の合計、以下同様)が85.6%、「費用がかさむなら進学させなくてもよい(計)」が14.4%となりました。

### ■ POINT 2

**⇒「子どもの教育資金に不安を感じる」親の8割半、不安を感じる理由「物価の上昇」がダントツ**

全回答者(1,000名)に、子どもの将来について、教育資金に不安を感じるか聞いたところ、「不安を感じる」は83.5%、「不安を感じない」は16.5%となりました。

子どもの就学段階別にみると、「不安を感じる」と回答した親の割合は、中高生の親(87.3%)が最も高くなり、未就学児の親(86.3%)が続きました。

子どもの教育資金に不安を感じる親(835名)に、不安を感じる理由を聞いたところ、「物価の上昇」(55.7%)が突出して高くなりました。止まらない物価上昇を受け、今後の教育費の増加に懸念を抱く親が多いのではないのでしょうか。次いで高くなったのは、「教育資金がどのくらい必要となるかわからない」(35.2%)、「収入の維持や増加に自信がない」(33.5%)、「社会保険料の負担増」(27.8%)、「病気やケガで収入が途絶えるリスク」(23.1%)でした。

### ■ POINT 3

**⇒小学生から社会人になるまでに必要な教育資金 平均予想金額は1,439万円、調査開始以来の最高額を更新！**

未就学児の親(248名)に、子どもが小学生から社会人になるまでに、教育資金はいくらくらい必要だと思うか聞いたところ、「1,000万円～1,400万円位」(31.4%)と「2,000万円～2,400万円位」(25.4%)に多くの回答が集まり、平均予想金額は1,439万円でした。

平均予想金額を過去の調査結果と比較すると、2022年1,377万円→2023年1,436万円→2024年1,439万円と、調査開始以来最高額となった2023年を上回りました。物価高や相次ぐ値上げラッシュなどを背景に、必要だと予想する教育資金は上昇を続けるも、上げ幅は縮小しました。

### ■ POINT 4

**⇒子どもに目指してほしい“理想の大人” 有名人では1位「大谷翔平さん」**

全回答者(1,000名)に、自分の子どもに目指してほしい“理想の大人”のイメージに合う有名人やアニメキャラ、歴史上の人物について聞きました。

有名人では、1位「大谷翔平さん」、2位「芦田愛菜さん」、3位「所ジョージさん」となりました。「所ジョージさん」は昨年の5位から上昇しTOP3

## NEWS LETTER (調査レポート)

入りました。

選んだ理由をみると、1位の「大谷翔平さん」については「競技力も人格も素晴らしいから」や「小さいころからの夢を努力で実現しているから」、2位の「芦田愛菜さん」については「学業と仕事を見事に両立させているから」、3位の「所ジョージさん」については「人生を楽しんでいそうだから」といった回答が挙げられました。

### ■ POINT 5

#### ⇒自分の子どもに就いてほしい職業 男子・女子の親ともに1位は「公務員」

全回答者(1,000名)に、自分の子どもに就いてほしい職業を聞きました。

男子の親では、1位「公務員」、2位「会社員」、3位「医師」、4位「研究者」、5位「医療関係職(医師、看護師など除く)」となりました。

選んだ理由をみると、1位の「公務員」については「収入が安定しているから」、2位の「会社員」については「本人が希望しているから」、3位の「医師」については「人のためになる仕事だから」といった回答が挙げられました。

女子の親では、1位「公務員」、2位「看護師」、3位「医師」、4位「会社員」「薬剤師」となりました。

選んだ理由をみると、1位の「公務員」については「収入など安定しており、将来も安心できるから」、2位の「看護師」については「どの場所にも需要がある職業だと思うから」、3位の「医師」については「人の役に立てるから」といった回答が挙げられました。

#### ◆ファイナンシャルプランナーのコメント◆

ファイナンシャルプランナー  
 子どもマネー総合研究会理事  
 亜細亜大学非常勤講師

豊田 真弓



「子どもの教育資金に関する調査 2024」では、子どもの進学を支えたいという親の希望は相変わらず強い一方で、物価上昇などの影響で教育資金に対する不安感が高まっている様子が浮き彫りになりました。

まず、「子どもが希望する場合、多少費用がかさんでも大学等へ進学させたい」と回答した親は 85.6%で、前年と同水準でした。ただし、子どもの大学等の入学金・授業料等の費用について、「費用にこだわらず子どもの希望を優先させたい」は 76.4%で、前年より微減。願わくば地元の国公立大学へ進学してほしい、という本音もうかがえます。また、「海外留学や海外研修は多少費用がかさんでも経験させたい」との回答は 66.3%と前年比+7.0ポイントで、教育熱が高まっている印象もあります。

今回の調査で注目すべき点は、「子どもの教育資金に不安を感じる」と回答した親が全体で83.5%と、大多数の親が不安を感じているということです。就学段階別では、教育費のピークとなる大学進学が視野に入中高生が 87.3%、教育費についての情報がまだ十分でない未就学児が 86.3%とやはり高く、親の不安が特に強いようです。

教育資金に対して不安を感じる理由(複数回答)は、「物価の上昇」が 55.7%とダントツでした。次いで、「教育資金がどのくらい必要となるかわからない」(35.2%)、「収入の維持や増加に自信がない」(33.5%)と続きます。

「小学生から社会人になるまでに必要な教育資金」の平均予想金額は 1,439 万円で、前年比+3 万円と微増ですが、調査開始以来の最高額を更新しました。これに対し、「子どもの進学費用のための備え」となる教育資金の平均支出金額は 16,942 円/月と、前年比 1,430 円の減少です。物価上昇の影響で教育資金が上がると予想する反面、可処分所得が減ることで、実際の教育資金はやや貯めにくくなっている様子もうかがえます。

「子どもを大学等へ進学させるための教育資金を準備している方法」(複数回答)は、「銀行預金」(56.4%)、「学資保険」(43.7%)、NISA などを含む「資産運用」(19.0%)と続きます。教育資金は長期で準備をするため、インフレリスクに備える意味で一部に NISA(特につみたて投資枠)を活用する方もいます。ただし、元本割れリスクがあるため、運用系の商品は 1/3 程度までに抑え、安全資産と組み合わせる上手にバランスをとる必要があります。

ファイナンシャルプランナーの立場で気になったのは、教育資金の準備をしていない世帯が 13.5%あり、特に世帯年収 400 万円未満の世帯で高いこと。大学等無償化を期待してのことかもしれませんが、制度は変わることもあるためリスクがあります。「余れば老後資金に回す」くらいの発想で、少額でも準備をしておいて欲しいところです。

子育てや教育は手間もお金もかかって大変と思われがちですが、子どもが社会にはばたくまでの成長を見守ることは、かけがえのない楽しい時間でもあります。子どもが夢をかなえるまで親としてはしっかりサポートしていきたいものです。

## NEWS LETTER (調査レポート)

### 子どもの教育資金に関する調査 2024

このたび、ソニー生命保険株式会社(代表取締役社長 高橋 薫)は、2024年1月31日~2月1日の2日間、大学生以下の子どもがいる20歳以上の男女に対し、今年で11回目(※)となる「子どもの教育資金に関する調査」をインターネットリサーチで実施し、1,000名の有効サンプルの集計結果を公開しました。(調査協力会社: ネットエイジア株式会社)

※2014年~2016年は「子どもの教育資金と学資保険に関する調査」として発表

#### 【教育や教育資金に関する意識】

親の6割半が「子どもの学力や学歴は教育費にいくらかけるかによって決まる」と実感

親の約7割が「早期の知育や英才教育は子どもの将来のために重要」と実感

親の8割半が「子どもが希望する場合、多少費用がかさんでも大学等へ進学させたい」と回答

親の約5割が「学生時代にはアルバイトをして学生生活の費用に充ててほしい」と回答

親の6割半が「子どもが希望する場合、海外留学や海外研修は多少費用がかさんでも経験させたい」と回答

「子どもの教育費の負担を重いと感じる」親の約7割

「子どもの教育資金に不安を感じる」親の8割半

不安を感じる理由「物価の上昇」がダントツ、2位は「教育資金がどのくらい必要となるかわからない」

#### 【子育て・教育に関する支出の実態】

小学生から社会人になるまでに必要な教育資金 平均予想金額は1,439万円、

調査開始以来の最高額を再び更新する結果に

教育資金として子どもの祖父母からこれまでに資金援助を受けた金額 平均は124万円、

昨年から20万円増加

学校外教育費の平均支出金額は17,593円/月、調査開始以来最高額に

子どものこづかひの平均額 小学生では2,777円/月、中高生では7,073円/月

「子どもの携帯・スマホ料に支出している」小学生の親では4割半、中高生の親では約9割

子どもの進学費用のための備え 平均支出金額は16,942円/月、昨年から1,430円の減少

子どもを大学等へ進学させるための教育資金の準備方法 TOP2は「銀行預金」「学資保険」

#### 【大学等の学費や奨学金に関する意識】

「大学等の学費は高すぎる」高校生以下・浪人生の親の8割強

「大学等の学費を無償化してほしい」高校生以下・浪人生の親の8割半

「給付型奨学金をもっと利用しやすくしてほしい」高校生以下・浪人生の親の8割強

「貸与型奨学金を利用した場合、返済時に支援したいと思う」高校生以下・浪人生の親の8割

#### 【『子ども未来戦略』に関する意識】

2024年10月から行われる児童手当の拡充に対する期待度

「児童手当の所得制限撤廃」は親の6割半、「児童手当の高校生年代までの延長」は親の7割半、

「児童手当の多子加算」は親の5割半が期待

「多子世帯の大学無償化に期待したい」子どもが3人以上いる親の8割半

## NEWS LETTER (調査レポート)

### 【高校の授業料無償化に関する意識】

「所得制限のない私立を含む高校の授業料無償化は育児支援策として有効」は親の7割半が同意、九州・沖縄では8割半

「所得制限のない私立を含む高校の授業料無償化を全国一律の制度として実施すべき」は親の8割が同意、九州・沖縄では8割半

「所得制限のない私立を含む高校の授業料無償化は税金の使い道として不適切」は親の4割半が同意、北陸・甲信越では5割半

---

### 【子どもに目指してほしい理想の大人・就いてほしい職業ランキング 2024】

子どもに目指してほしい“理想の大人” 有名人では1位「大谷翔平さん」

子どもに目指してほしい“理想の大人” アニメキャラでは1位「江戸川コナン」

子どもに目指してほしい“理想の大人” 歴史上の人物では1位「徳川家康」

自分の子どもに就いてほしい職業 男子の親では1位「公務員」2位「会社員」3位「医師」

自分の子どもに就いてほしい職業 女子の親では1位「公務員」2位「看護師」3位「医師」

---

# NEWS LETTER (調査レポート)

## アンケート調査結果

◆親の6割半が「子どもの学力や学歴は教育費にいくらかけるかによって決まる」と実感

◆親の約7割が「早期の知育や英才教育は子どもの将来のために重要」と実感

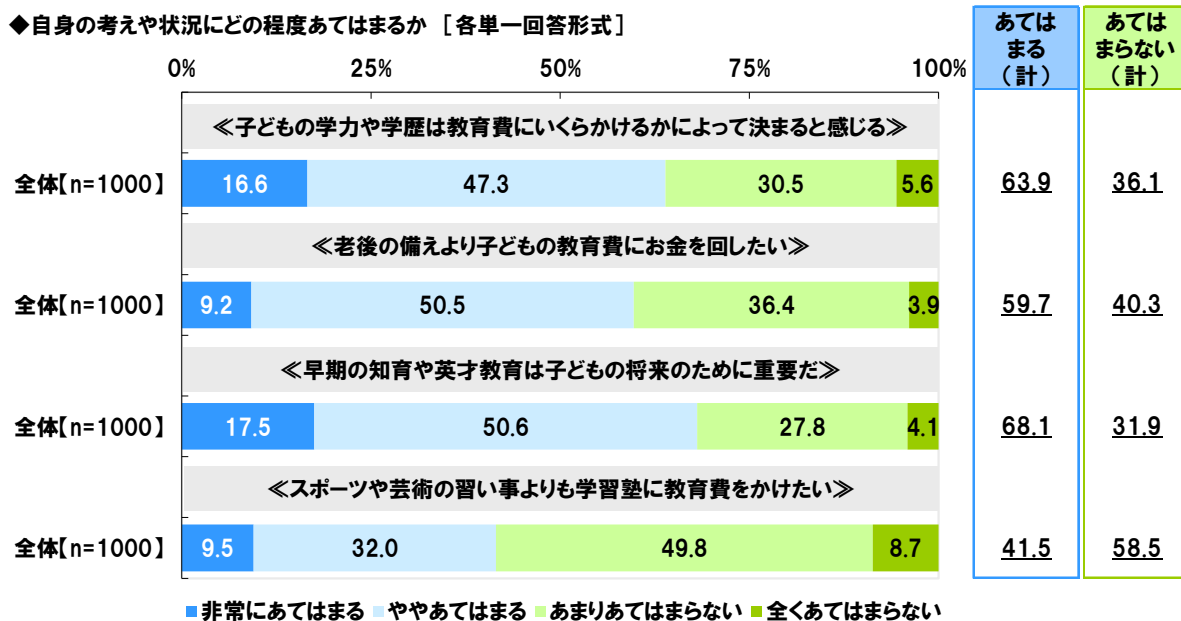
大学生以下の子どもがいる20歳以上の男女1,000名(全回答者)に、子どもの教育や教育費に関する内容について、自身の考えや状況がどの程度あてはまるか聞きました。

《子どもの学力や学歴は教育費にいくらかけるかによって決まると感じる》では、「非常にあてはまる」が16.6%、「ややあてはまる」が47.3%で、合計した「あてはまる(計)」は63.9%となりました。子どもの学力や学歴が教育費の多寡に大きく依存していると実感している親が多いようです。

《老後の備えより子どもの教育費にお金を回したい》では「あてはまる(計)」は59.7%、《早期の知育や英才教育は子どもの将来のために重要だ》では「あてはまる(計)」は68.1%、《スポーツや芸術の習い事よりも学習塾に教育費をかけたい》では「あてはまる(計)」は41.5%となりました。(図1)

(図1)

◆自身の考えや状況にどの程度あてはまるか [各単一回答形式]





## NEWS LETTER (調査レポート)

- ◆親の8割半が「子どもが希望する場合、多少費用がかさんでも大学等へ進学させたい」と回答
- ◆親の約5割が「学生時代にはアルバイトをして学生生活の費用に充ててほしい」と回答
- ◆親の6割半が「子どもが希望する場合、海外留学や海外研修は多少費用がかさんでも経験させたい」と回答

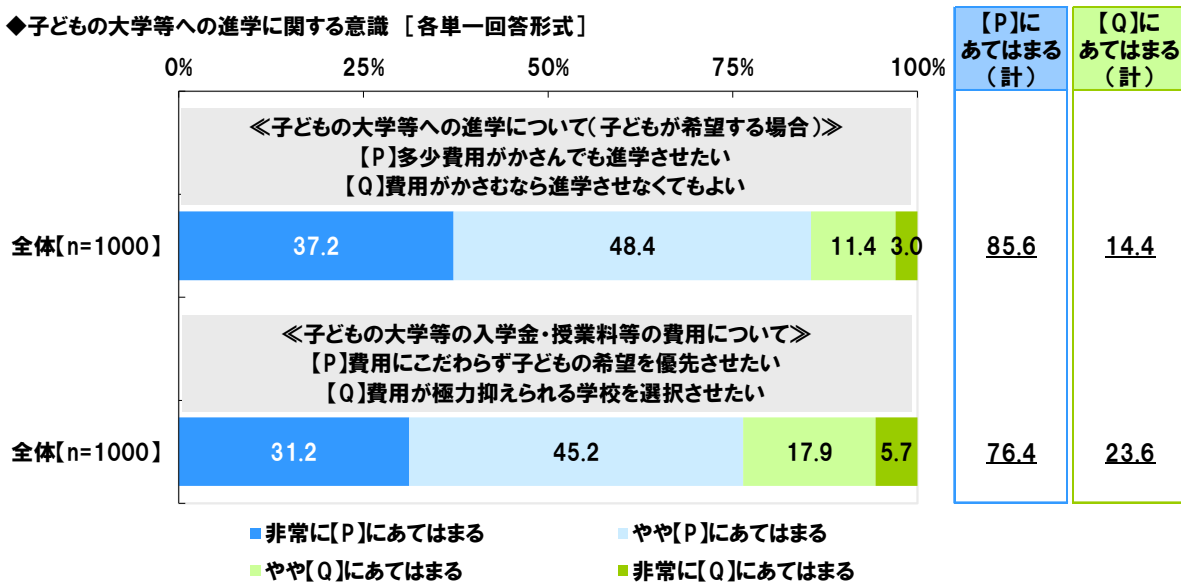
全回答者(1,000名)に、子どもの大学等(大学・短期大学・専門学校、以下同様)への進学に関する意識について聞いたところ、「(子どもが希望する場合)多少費用がかさんでも進学させたい(計)」「非常に」と「やや」の合計、以下同様)が85.6%、「費用がかさむなら進学させなくてもよい(計)」が14.4%となりました。

子どもの大学等の入学金・授業料等の費用については、「費用にこだわらず子どもの希望を優先させたい(計)」が76.4%、「費用が極力抑えられる学校を選択させたい(計)」が23.6%となりました。

経済的理由で進路選択の幅を狭めることはしたくないと考える親が多いのではないのでしょうか。(図2)

(図2)

◆子どもの大学等への進学に関する意識 [各単一回答形式]

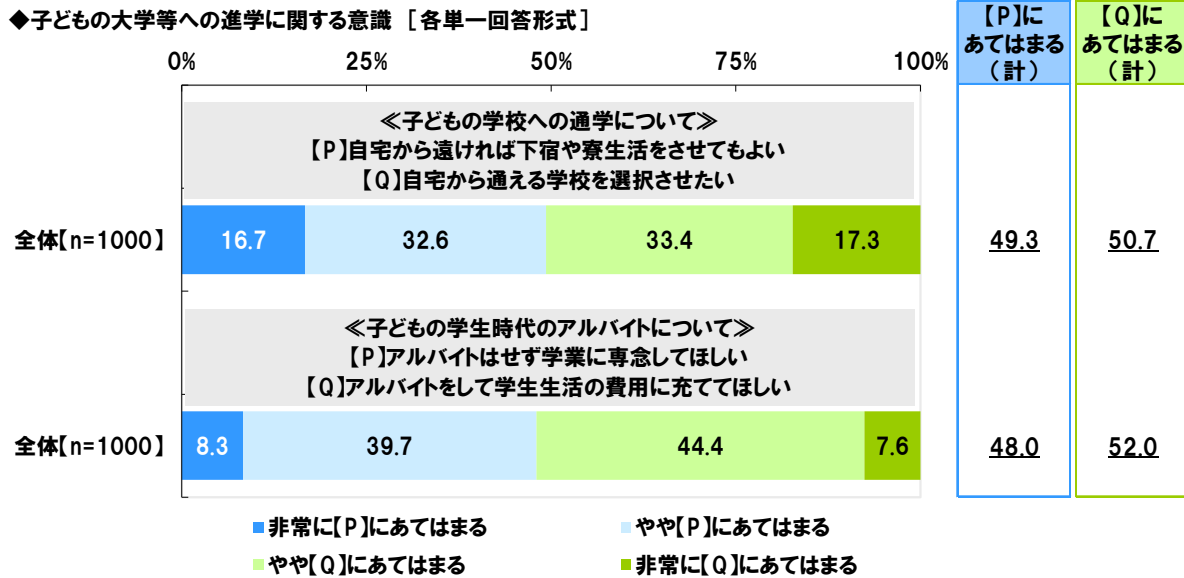


## NEWS LETTER (調査レポート)

子どもの学校への通学については、「自宅から遠ければ下宿や寮生活をさせてもよい(計)」が 49.3%、「自宅から通える学校を選択させたい(計)」が 50.7%となりました。

子どもの学生時代のアルバイトについては、「アルバイトはせず学業に専念してほしい(計)」が 48.0%、「アルバイトをして学生生活の費用に充ててほしい(計)」が 52.0%となりました。(図3)

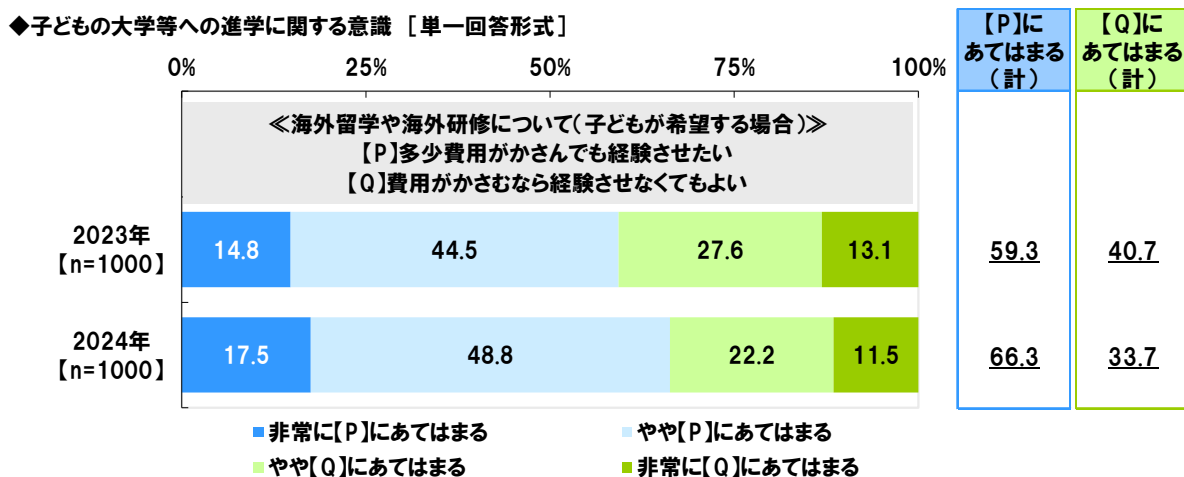
(図3)



海外留学や海外研修については、「(子どもが希望する場合)多少費用がかさんでも経験させたい(計)」が 66.3%、「費用がかさむなら経験させなくてもよい(計)」が 33.7%となりました。

昨年の調査結果と比較すると、「(子どもが希望する場合)多少費用がかさんでも経験させたい(計)」と回答した人の割合は、2023年 59.3%→2024年 66.3%と7.0ポイント上昇しました。子どもが希望するなら、海外での学びの機会を得ることやグローバルキャリアの形成を後押ししたいと考える親は増えているようです。(図4)

(図4) **経年調査**



## NEWS LETTER (調査レポート)

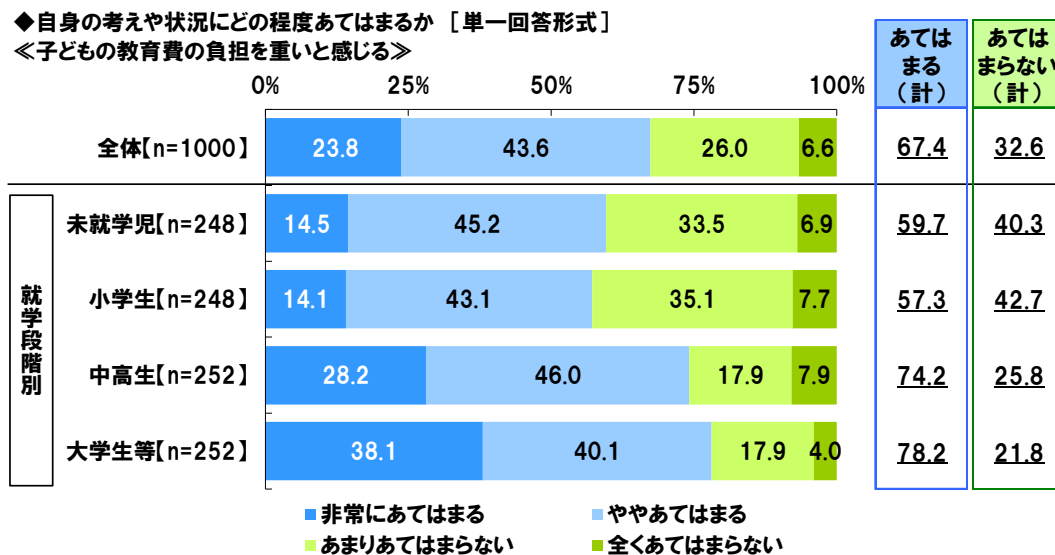
### ◆「子どもの教育費の負担を重いと感じる」親の約7割

教育費の負担について質問しました。

全回答者(1,000名)に、自身の考えや状況に、「子どもの教育費の負担を重いと感じる」がどの程度あてはまるか聞いたところ、「非常にあてはまる」が23.8%、「ややあてはまる」が43.6%で、合計した「あてはまる(計)」は67.4%となりました。

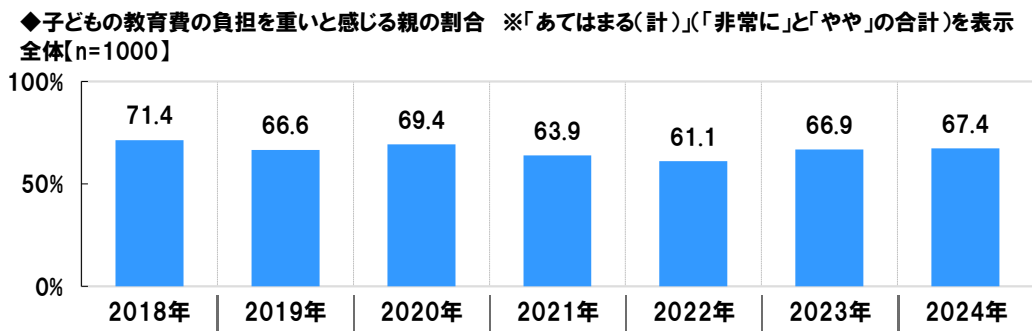
子どもの就学段階別にみると、「あてはまる(計)」と回答した親の割合は就学段階が上がるほど高くなる傾向がみられ、大学生等(予備校生・浪人生・大学生・短期大学生・専門学校生、以下同様)の親では78.2%でした。(図5)

(図5)



過去の調査結果と比較すると、子どもの教育費の負担を重いと感じる親の割合は、2023年66.9%→2024年67.4%とほぼ横ばいで推移しました。(図6)

(図6) 経年調査





## NEWS LETTER (調査レポート)

### ◆「子どもの教育資金に不安を感じる」親の8割半

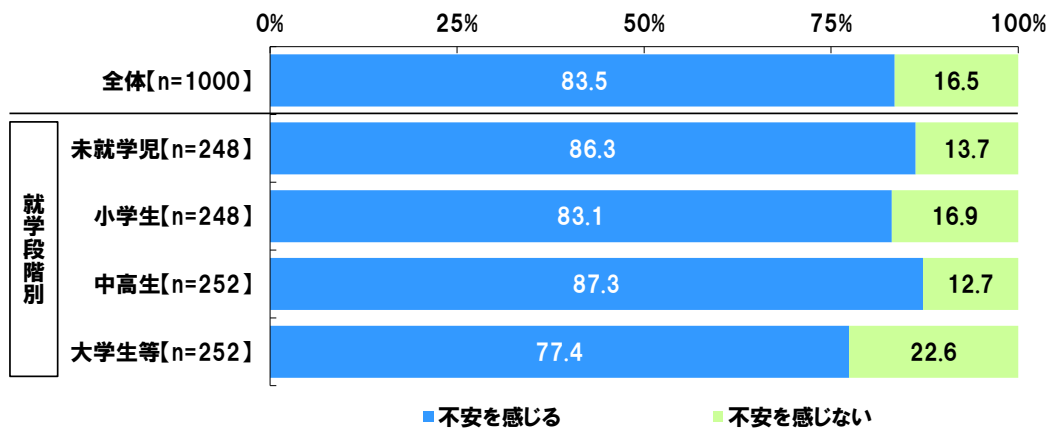
**不安を感じる理由「物価の上昇」がダントツ、2位は「教育資金がどのくらい必要となるかわからない」**

全回答者(1,000名)に、子どもの将来について、教育資金に不安を感じるか聞いたところ、「不安を感じる」は83.5%、「不安を感じない」は16.5%となりました。

子どもの就学段階別にみると、「不安を感じる」と回答した親の割合は、中高生の親(87.3%)が最も高くなり、未就学児の親(86.3%)が続きました。(図7)

(図7)

#### ◆子どもの将来について、教育資金に不安を感じるか

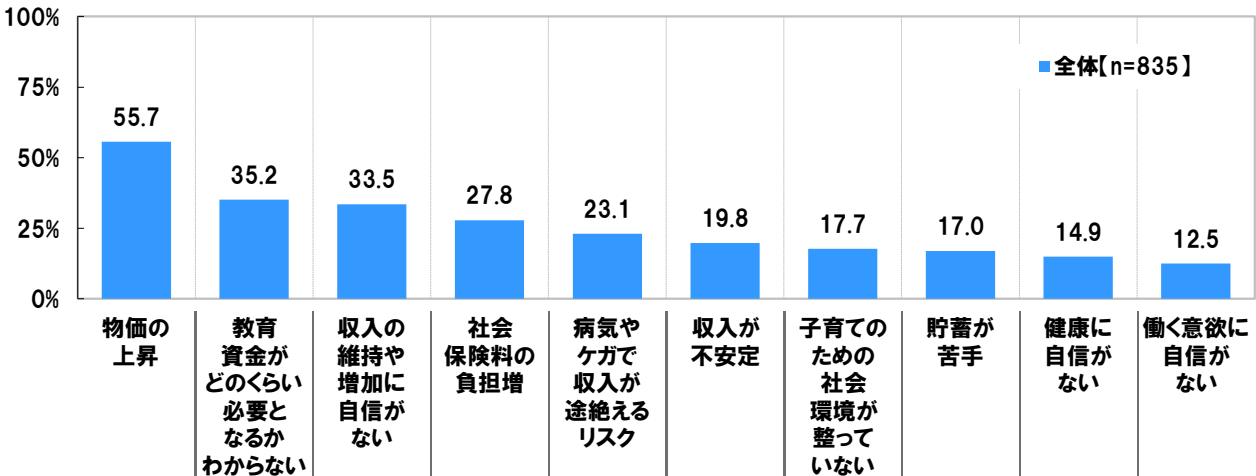


子どもの教育資金に不安を感じる親(835名)に、不安を感じる理由を聞いたところ、「物価の上昇」(55.7%)が突出して高くなりました。止まらない物価上昇を受け、今後の教育費の増加に懸念を抱く親が多いのではないでしょうか。次いで高くなったのは、「教育資金がどのくらい必要となるかわからない」(35.2%)、「収入の維持や増加に自信がない」(33.5%)、「社会保険料の負担増」(27.8%)、「病気やケガで収入が途絶えるリスク」(23.1%)でした。(図8)

(図8)

#### ◆子どもの教育資金に不安を感じる理由 [複数回答形式] ※上位10位まで表示

対象:子どもの教育資金に不安を感じる親



## NEWS LETTER (調査レポート)

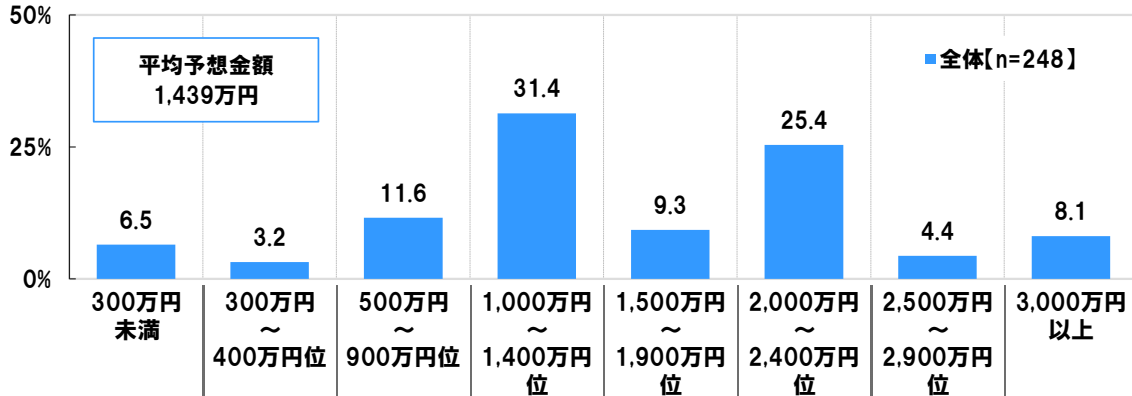
### ◆小学生から社会人になるまでに必要な教育資金 平均予想金額は1,439万円、 調査開始以来の最高額を再び更新する結果に

子どもの教育資金の予想について質問しました。

未就学児の親(248名)に、子どもが小学生から社会人になるまでに、教育資金はいくらぐらい必要だと思うか聞いたところ、「1,000万円～1,400万円位」(31.4%)と「2,000万円～2,400万円位」(25.4%)に多くの回答が集まり、平均予想金額は1,439万円でした。(図9)

(図9)

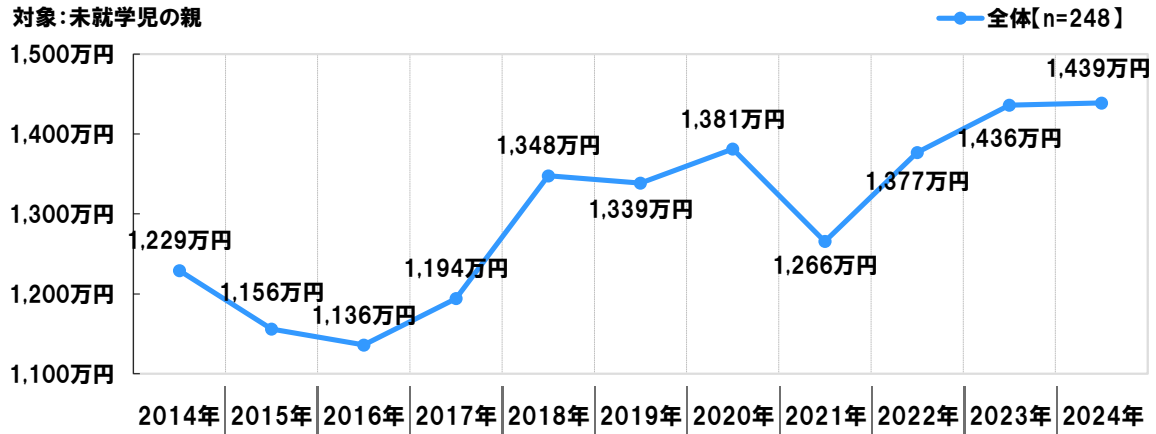
#### ◆子どもが小学生から社会人になるまでに必要だと思う教育資金 [単一回答形式] 対象:未就学児の親



平均予想金額を過去の調査結果と比較すると、2022年1,377万円→2023年1,436万円→2024年1,439万円と、調査開始以来最高額となった2023年を上回りました。物価高や相次ぐ値上げラッシュなどを背景に、必要だと予想する教育資金は上昇を続けるも、上げ幅は縮小しました。(図10)

(図10) **経年調査**

#### ◆子どもが小学生から社会人になるまでに必要だと思う教育資金の平均 対象:未就学児の親



## NEWS LETTER (調査レポート)

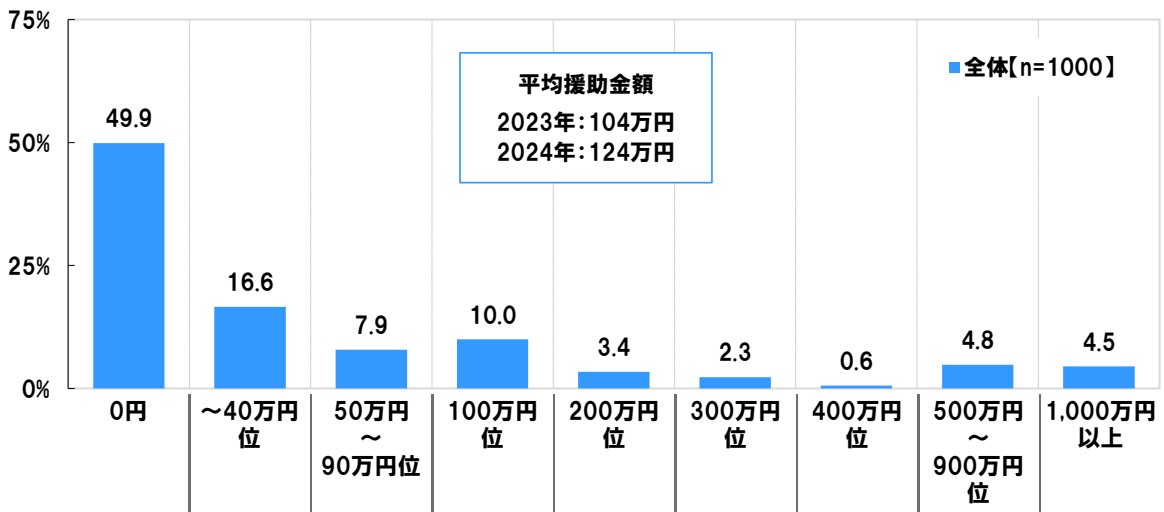
### ◆教育資金として子どもの祖父母からこれまでに資金援助を受けた金額 平均は124万円、 昨年から20万円増加

全回答者(1,000名)に、子どもの教育資金として子どもの祖父母(自分の親や義理の親)からこれまでにくらぐらい資金援助してもらっているか聞いたところ、「0円」(49.9%)に半数の回答が集まったほか、「~40万円位」(16.6%)や「100万円位」(10.0%)にも回答が集まり、平均は124万円でした。

昨年の調査結果と比較すると、資金援助してもらっている金額の平均は、2023年104万円→2024年124万円と20万円の増加となりました。(図11)

(図11) **経年調査**

◆子どもの教育資金として子どもの祖父母(自分の親や義理の親)からこれまでにくらぐらい資金援助してもらっているか  
 [単一回答形式]



## NEWS LETTER (調査レポート)

### ◆学校外教育費の平均支出金額は17,593円/月、調査開始以来最高額に

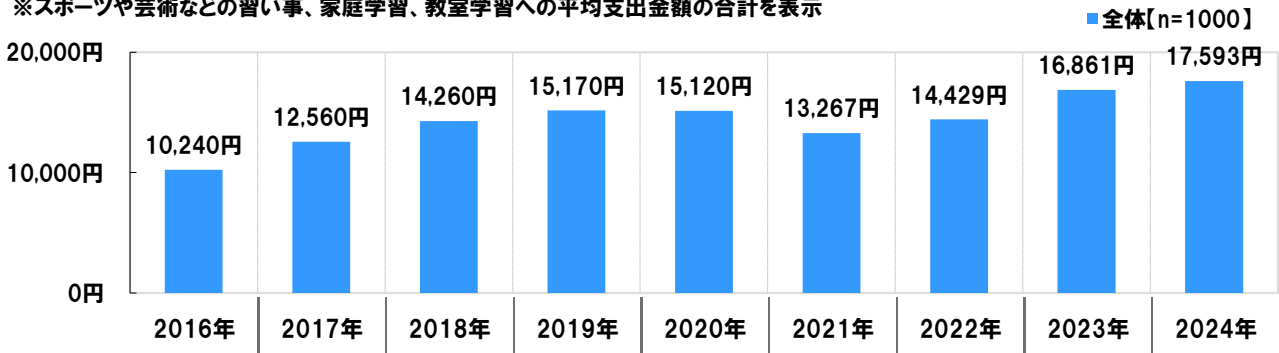
習い事や家庭学習、教室学習などにかかる費用(学校外教育費)の支出状況について質問しました。

全回答者(1,000名)に、スポーツや芸術などの習い事、家庭学習、教室学習のそれぞれに1ヶ月あたりいくらからい支出しているか聞き、それぞれの平均支出金額を合計したところ、17,593円/月となりました。

平均支出金額の合計を過去の調査結果と比較すると、2023年16,861円→2024年17,593円と732円の増加となり、調査開始以来最も高い水準となりました。子どもの将来の可能性を広げるために、学校外教育の機会を積極的に活用する親が増えているのではないのでしょうか。(図12)

(図12) **経年調査**

◆学校以外での教育費の平均支出金額(子ども一人あたり・月額)の合計  
 ※スポーツや芸術などの習い事、家庭学習、教室学習への平均支出金額の合計を表示

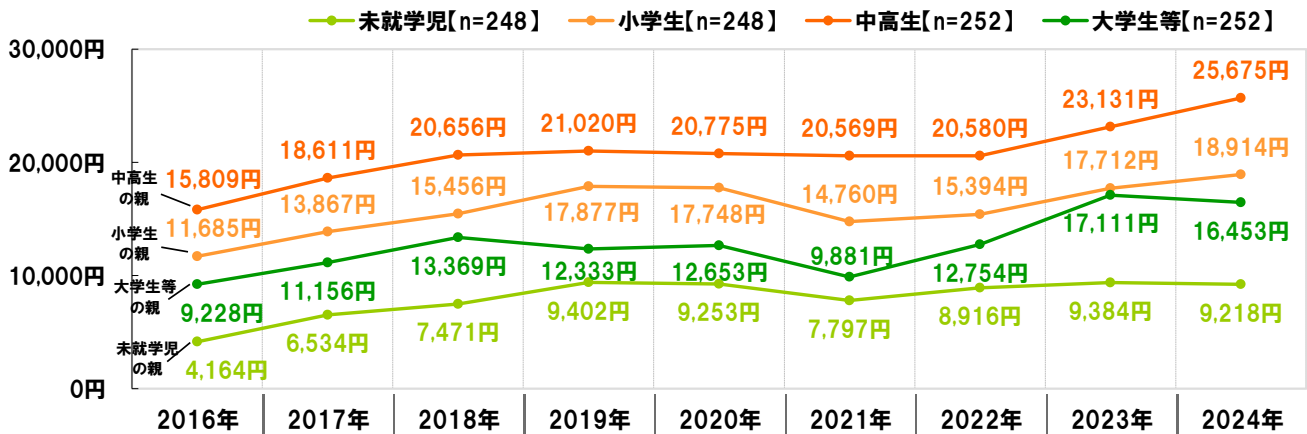


子どもの就学段階別に平均支出金額の合計をみると、未就学児の親では9,218円/月、小学生の親では18,914円/月、中高生の親では25,675円/月、大学生等の親では16,453円/月となりました。

平均支出金額の合計を昨年の調査結果と比較すると、小学生の親と中高生の親では調査開始以来最も高い水準となりました。(図13)

(図13) **経年調査**

◆学校以外での教育費の平均支出金額(子ども一人あたり・月額)の合計  
 ※スポーツや芸術などの習い事、家庭学習、教室学習への平均支出金額の合計を表示



## NEWS LETTER (調査レポート)

◆子どものこづかいの平均額 小学生では 2,777 円/月、中高生では 7,073 円/月

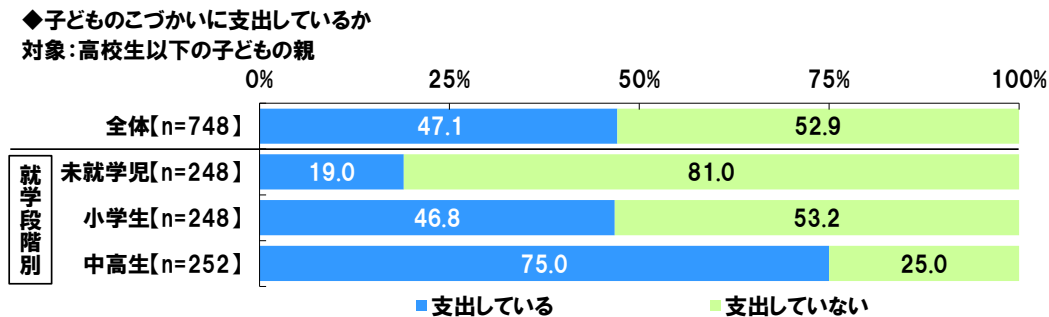
◆「子どもの携帯・スマホ料金に支出している」小学生の親では 4 割半、中高生の親では約 9 割

高校生以下の子どもの親(748名)に、子どものこづかいや、携帯電話・スマートフォンの通信・通話料金への支出状況について聞きました。

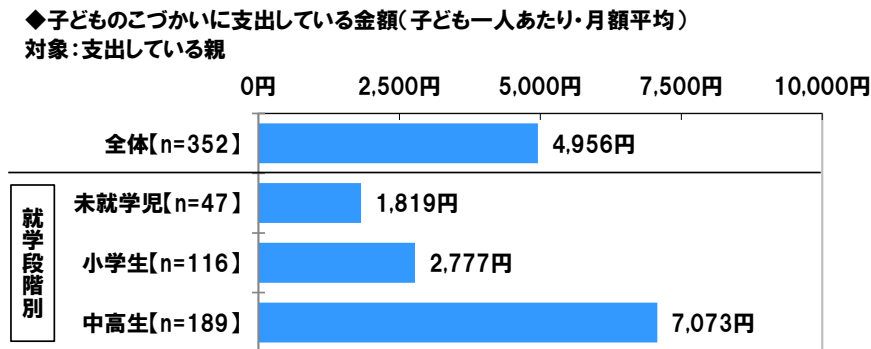
子どもの《こづかい》に支出している親の割合を子どもの就学段階別にみると、未就学児の親では 19.0%、小学生の親では 46.8%、中高生の親では 75.0%でした。(図 14)

子どものこづかいに支出している親(352名)の平均支出金額は、未就学児の親では 1,819 円/月、小学生の親では 2,777 円/月、中高生の親では 7,073 円/月となりました。(図 15)

(図 14)

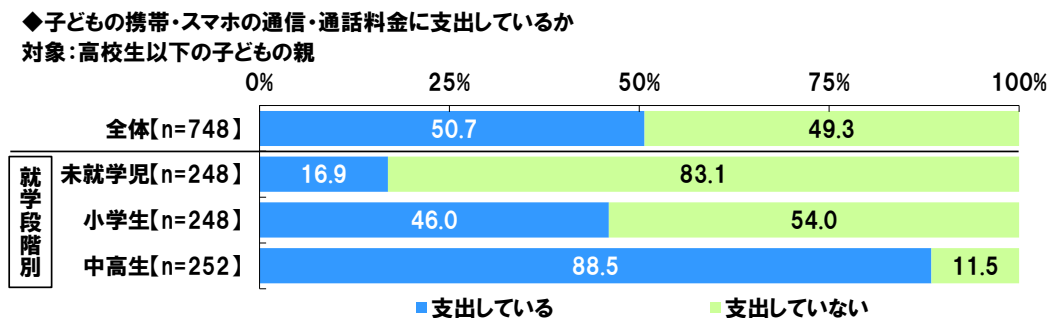


(図 15)



また、子どもの《携帯・スマホの通信・通話料金》に支出している親の割合を子どもの就学段階別にみると、未就学児の親では 16.9%、小学生の親では 46.0%、中高生の親では 88.5%でした。(図 16)

(図 16)



## NEWS LETTER (調査レポート)

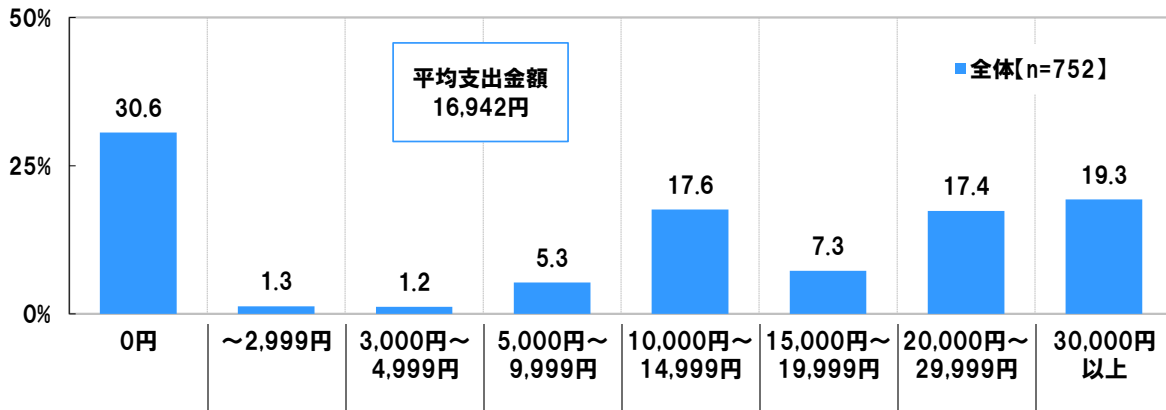
### ◆子どもの進学費用のための備え 平均支出金額は16,942円/月、昨年から1,430円の減少

高校生以下の子どもの親、または予備校生・浪人生の親(752名)に、子どもの進学費用のための備えとして、一人あたり月々いくらくらい支出をしているか聞いたところ、「0円」(30.6%)に最も多くの回答が集まったほか、「10,000円～14,999円」(17.6%)や「20,000円～29,999円」(17.4%)、「30,000円以上」(19.3%)にも回答が集まり、平均は16,492円/月でした。(図17)

平均支出金額を過去の調査結果と比較すると、2022年15,690円→2023年18,372円→2024年16,942円と、昨年みられた増加から一転、今年は1,430円の減少となりました。物価高による実質賃金の減少を受け、家計の厳しさが増しているという実態が垣間見える結果となりました。(図18)

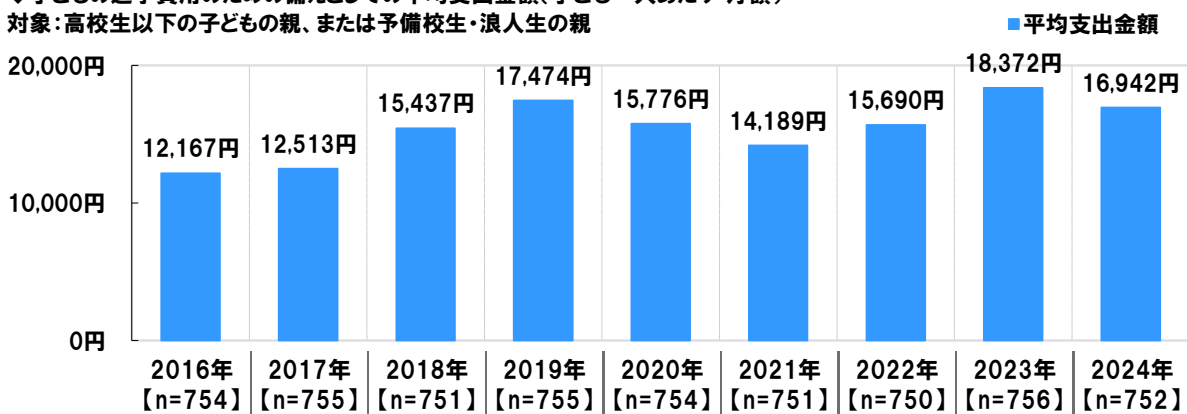
(図17)

◆子どもの進学費用のための備えとして、一人あたり月々いくらくらい支出をしているか  
 [数値入力形式] 対象:高校生以下の子どもの親、または予備校生・浪人生の親



(図18) **経年調査**

◆子どもの進学費用のための備えとしての平均支出金額(子ども一人あたり・月額)  
 対象:高校生以下の子どもの親、または予備校生・浪人生の親





## NEWS LETTER (調査レポート)

### ◆子どもを大学等へ進学させるための教育資金の準備方法 TOP2 は「銀行預金」「学資保険」

子どもを進学させるための教育資金の準備方法について質問しました。

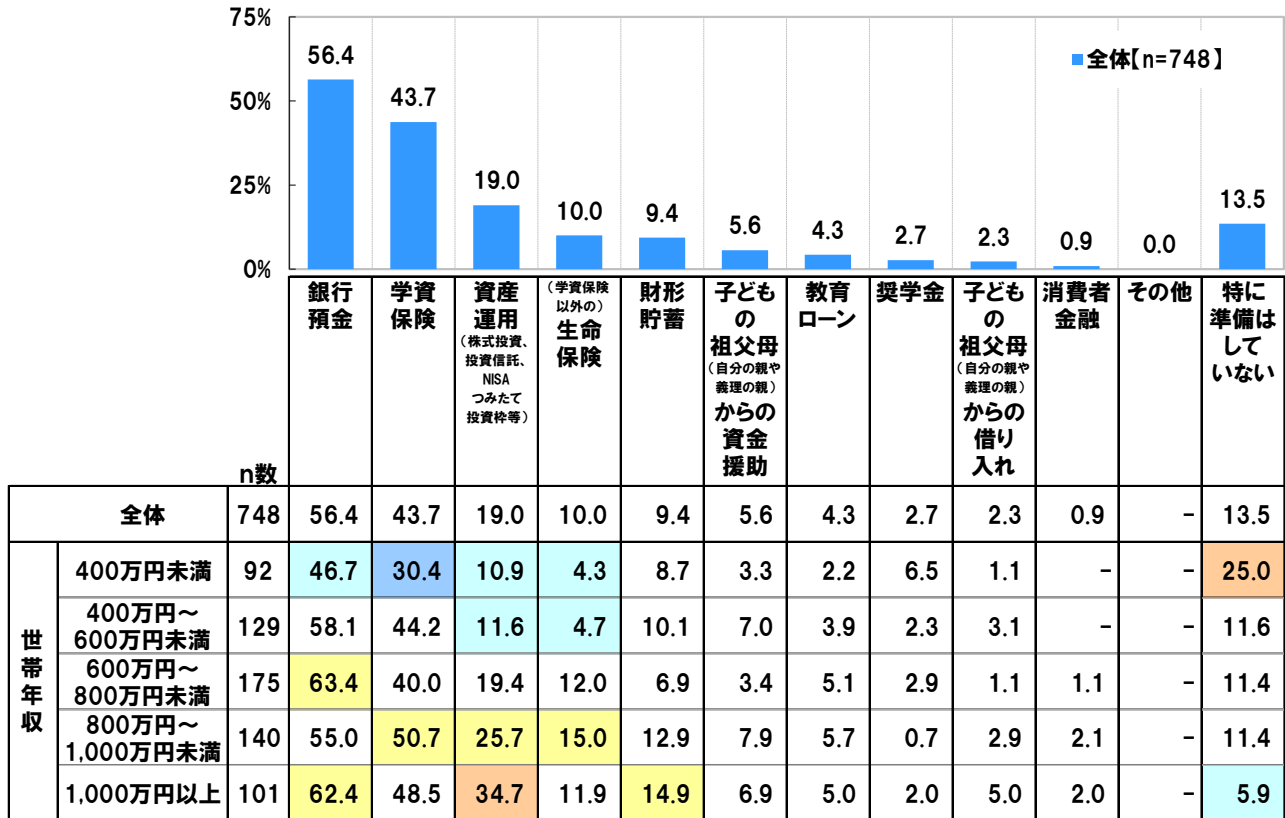
高校生以下の子どもの親(748名)に、大学等への進学のための教育資金を、どのような方法で準備しているか聞いたところ、「銀行預金」(56.4%)が最も高くなり、「学資保険」(43.7%)、「資産運用(株式投資、投資信託、NISA つみたて投資枠等)」(19.0%)、「(学資保険以外の)生命保険」(10.0%)、「財形貯蓄」(9.4%)が続きました。

世帯年収別にみると、世帯年収が1,000万円以上の人では「資産運用(株式投資、投資信託、NISA つみたて投資枠等)」が34.7%と、全体(19.0%)と比べて10ポイント以上高くなりました。(図19)

(図19)

#### ◆子どもを大学等へ進学させるための教育資金を準備している方法 [複数回答形式]

対象:高校生以下の子どもの親



\*世帯年収額を未回答の人は非表示

全体比+10pt以上 全体比+5pt以上 全体比-5pt以下 全体比-10pt以下 (%)

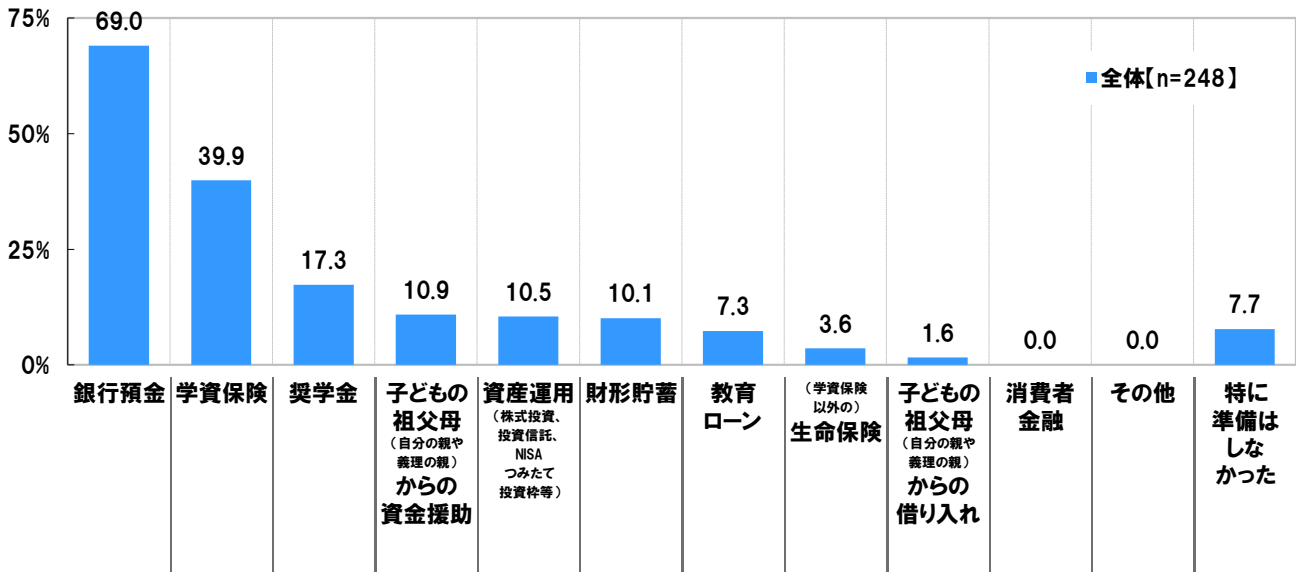
## NEWS LETTER (調査レポート)

他方、大学生等の親(予備校生・浪人生を含まない)(248名)に、大学等への進学のための教育資金を、どのような方法で準備してきたか聞いたところ、「銀行預金」(69.0%)が突出して高くなり、「学資保険」(39.9%)、「奨学金」(17.3%)、「子どもの祖父母(自分の親や義理の親)からの資金援助」(10.9%)、「資産運用(株式投資、投資信託、NISA つみたて投資枠等)」(10.5%)が続きました。(図20)

(図20)

◆子どもを大学等へ進学させるための教育資金を準備してきた方法 [複数回答形式]

対象:大学生等の親(予備校生・浪人生を含まない)



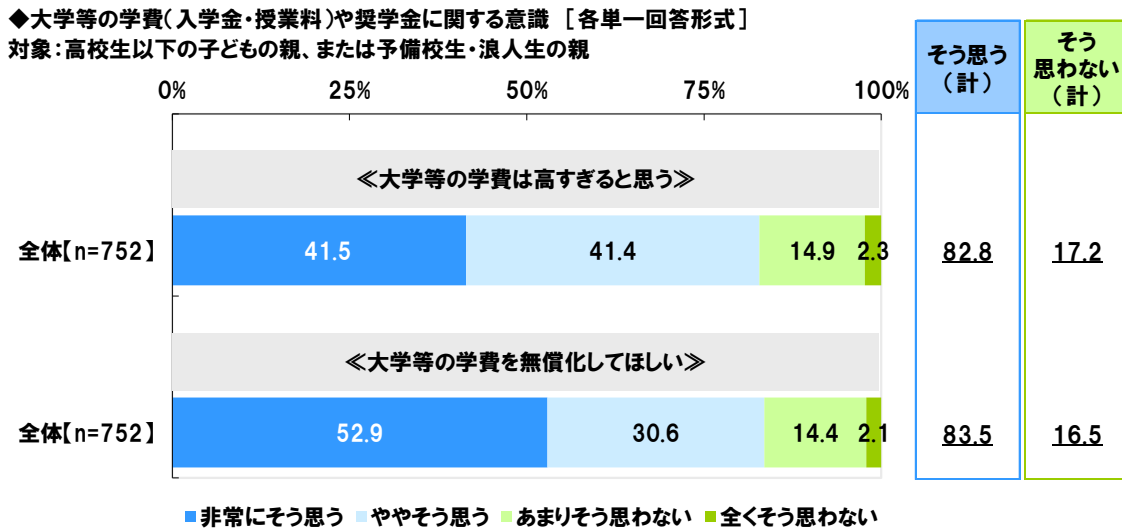
## NEWS LETTER (調査レポート)

- ◆「大学等の学費は高すぎる」高校生以下・浪人生の親の8割強
- ◆「大学等の学費を無償化してほしい」高校生以下・浪人生の親の8割半
- ◆「給付型奨学金をもっと利用しやすくしてほしい」高校生以下・浪人生の親の8割強
- ◆「貸与型奨学金を利用した場合、返済時に支援したいと思う」高校生以下・浪人生の親の8割

高校生以下の子どもの親、または予備校生・浪人生の親(752名)に、大学等の学費(入学金・授業料)や奨学金に関する意識について聞きました。

《大学等の学費は高すぎると思う》では「非常にそう思う」が41.5%、「ややそう思う」が41.4%で、合計した「そう思う(計)」は82.8%、《大学等の学費を無償化してほしい》では「そう思う(計)」は83.5%となりました。  
 (図21)

(図21)



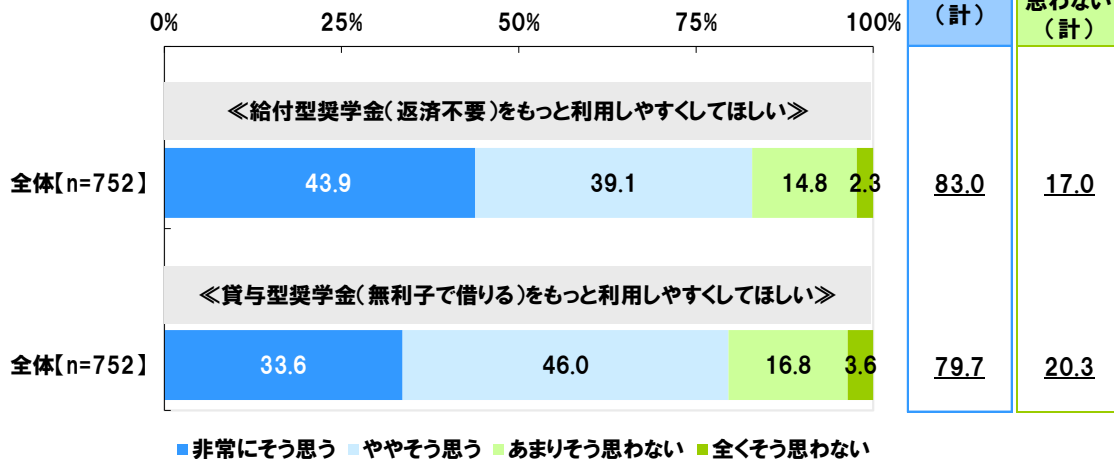
## NEWS LETTER (調査レポート)

奨学金には、返済が不要な給付型奨学金と、返済が必要な貸与型奨学金があり、さらに貸与型奨学金には無利子で借りるものと有利子で借りるものがあります。

《給付型奨学金(返済不要)をもっと利用しやすくしてほしい》では「そう思う(計)」は83.0%、《貸与型奨学金(無利子で借りる)をもっと利用しやすくしてほしい》では「そう思う(計)」は79.7%となりました。(図22)

(図22)

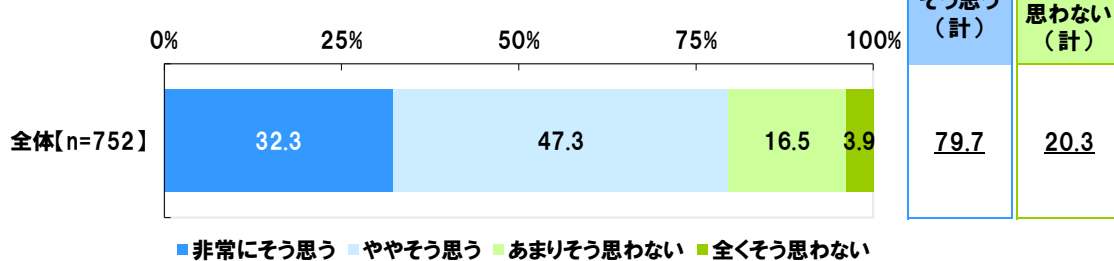
◆大学等の学費(入学金・授業料)や奨学金に関する意識 [各単一回答形式]  
 対象:高校生以下の子どもの親、または予備校生・浪人生の親



また、子どもが貸与型奨学金を利用した場合、返済時に支援したいと思うか聞いたところ、「そう思う(計)」は79.7%となりました。(図23)

(図23)

◆子どもが貸与型奨学金を利用した場合、返済時に支援したいと思うか [単一回答形式]  
 対象:高校生以下の子どもの親、または予備校生・浪人生の親



## NEWS LETTER (調査レポート)

### ◆2024年10月から行われる児童手当の拡充に対する期待度

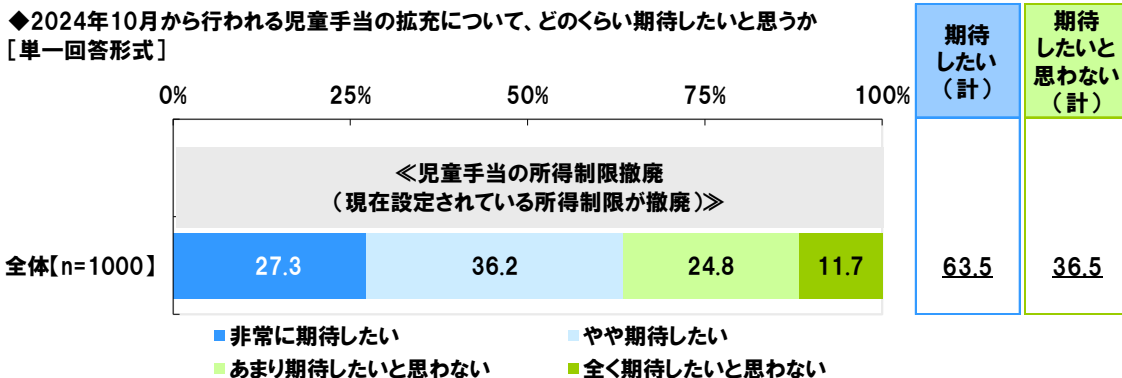
「児童手当の所得制限撤廃」は親の6割半、「児童手当の高校生年代までの延長」は親の7割半、「児童手当の多子加算」は親の5割半が期待

### ◆「多子世帯の大学無償化に期待したい」子どもが3人以上いる親の8割半

政府が2023年に決定した『こども未来戦略』について質問しました。『こども未来戦略』では、異次元の少子化対策の実現を目指すための取り組みとして、児童手当の拡充や多子世帯の大学無償化などが掲げられています。児童手当の拡充は2024年10月から、多子世帯の大学無償化は2025年度から行われる予定です。

全回答者(1,000名)に、2024年10月から行われる児童手当の拡充について、どのくらい期待したいと思うか聞いたところ、≪児童手当の所得制限撤廃(現在設定されている所得制限が撤廃)≫では、「非常に期待したい」が27.3%、「やや期待したい」が36.2%で、合計した「期待したい(計)」は63.5%、「全く期待したいと思わない」が11.7%、「あまり期待したいと思わない」が24.8%で、合計した「期待したいと思わない(計)」は36.5%となりました。(図24)

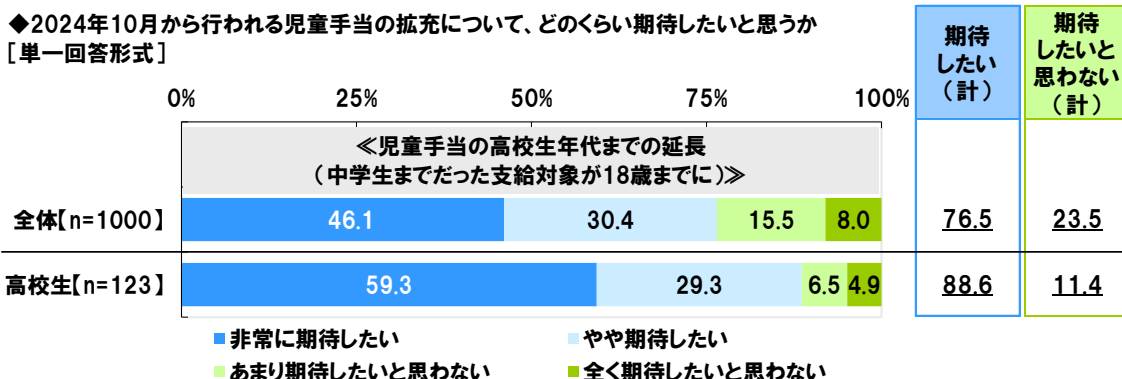
(図24)



≪児童手当の高校生年代までの延長(中学生までだった支給対象が18歳までに)≫では、「期待したい(計)」は76.5%、「期待したいと思わない(計)」は23.5%となりました。

高校生の親(123名)についてみると、「期待したい(計)」は88.6%と、全体(76.5%)と比べて12.1ポイント高くなりました。(図25)

(図25)

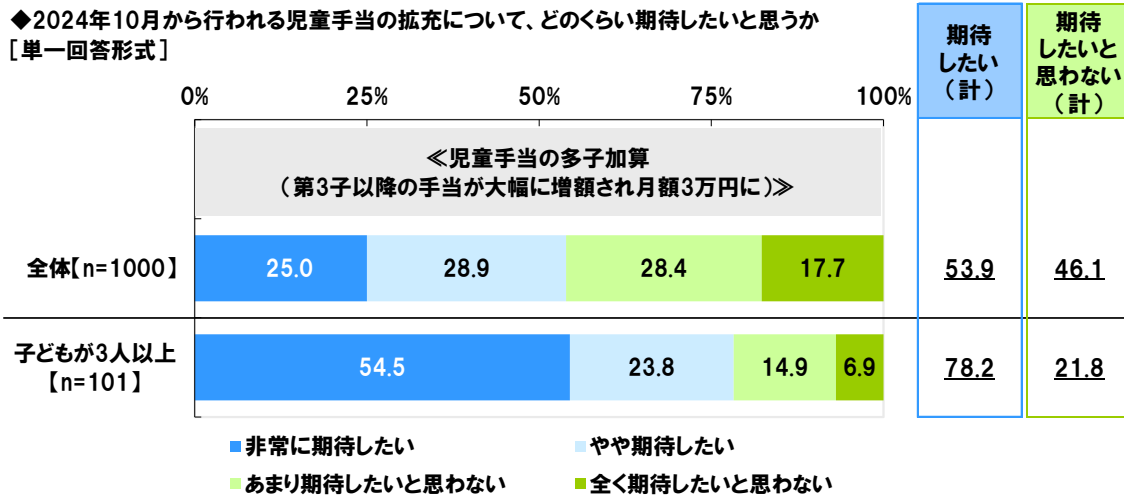


## NEWS LETTER (調査レポート)

《児童手当の多子加算(第3子以降の手当が大幅に増額され月額3万円に)》では、「期待したい(計)」は53.9%、「期待したいと思わない(計)」は46.1%となりました。

子どもが3人以上いる親(101名)についてみると、「期待したい(計)」は78.2%と、全体(53.9%)と比べて24.3ポイント高くなりました。(図26)

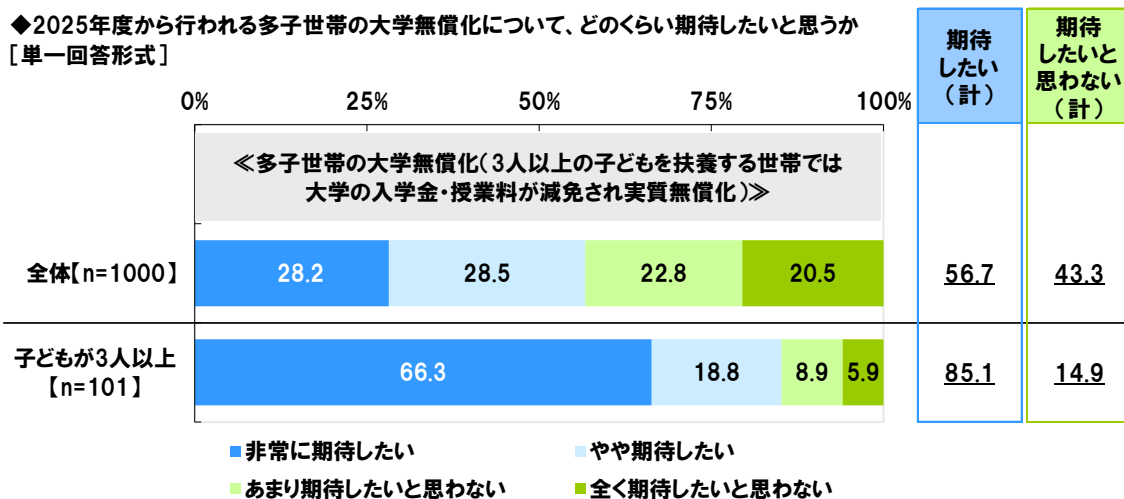
(図26)



《多子世帯の大学無償化(3人以上の子どもを扶養する世帯では大学の入学金・授業料が減免され実質無償化)》では、「期待したい(計)」は56.7%、「期待したいと思わない(計)」は43.3%となりました。

子どもが3人以上いる親(101名)についてみると、「期待したい(計)」は85.1%と、全体(56.7%)と比べて28.4ポイント高くなりました。(図27)

(図27)





## NEWS LETTER (調査レポート)

◆「所得制限のない私立を含む高校の授業料無償化は育児支援策として有効」は親の7割半が同意、

九州・沖縄では8割半

◆「所得制限のない私立を含む高校の授業料無償化を全国一律の制度として実施すべき」は親の8割が同意、

九州・沖縄では8割半

◆「所得制限のない私立を含む高校の授業料無償化は税金の使い道として不適切」は親の4割半が同意、

北陸・甲信越では5割半

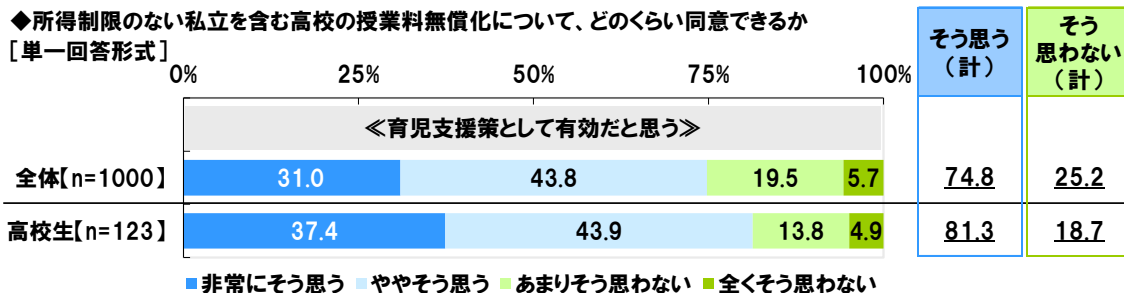
高校の授業料無償化について質問しました。大阪府は所得制限のない私立を含む高校の授業料無償化を目指し、来年度から段階的に授業料が無償化となります。また、東京都は来年度から所得制限のない私立を含む高校の授業料無償化をスタートさせます(大阪府・東京都どちらの無償化も府民・都民が対象)。

そこで、全回答者(1,000名)に、所得制限のない私立を含む高校の授業料無償化について、どのくらい同意できるか聞いたところ、「育児支援策として有効だと思う」では「非常にそう思う」が31.0%、「ややそう思う」が43.8%で、合計した「そう思う(計)」は74.8%、「全国一律の制度として実施すべきだと思う」では「そう思う(計)」は79.6%となりました。

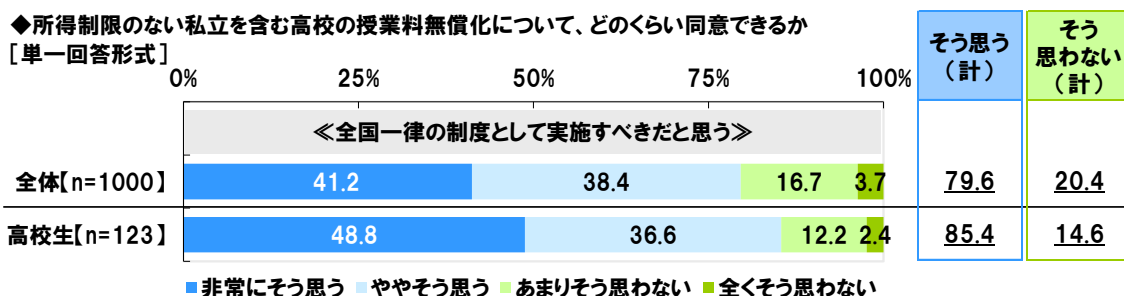
高校生の親(123名)についてみると、「育児支援策として有効だと思う」では「そう思う(計)」は81.3%、「全国一律の制度として実施すべきだと思う」では85.4%と、全体(順に74.8%、79.6%)と比べて5ポイント以上高くなりました。(図28)(図29)

また、「税金の使い道として不適切だと思う」では、「そう思う(計)」は45.9%となりました。(図30)

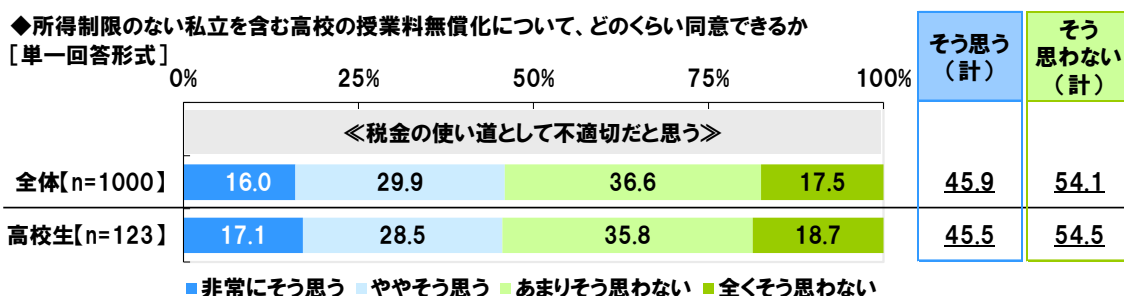
(図28)



(図29)



(図30)



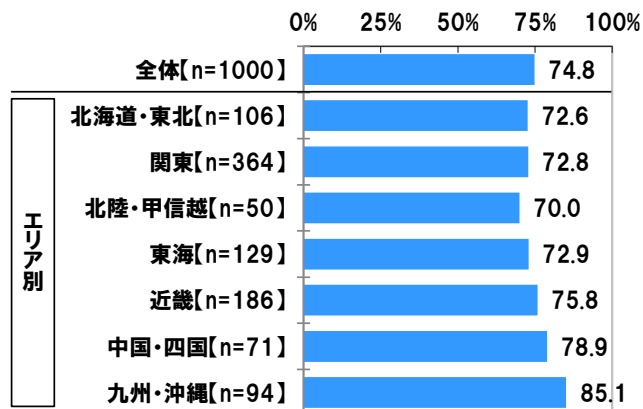
## NEWS LETTER (調査レポート)

エリア別にみると、《育児支援策として有効だと思う》で「そう思う(計)」と回答した人の割合が最も高くなったのは九州・沖縄(85.1%)、《全国一律の制度として実施すべきだと思う》で「そう思う(計)」と回答した人の割合が最も高くなったのはこちらも九州・沖縄(85.1%)でした。(図31)(図32)

《税金の使い道として不適切だと思う》で「そう思う(計)」と回答した人の割合が最も高くなったのは北陸・甲信越(54.0%)でした。(図33)

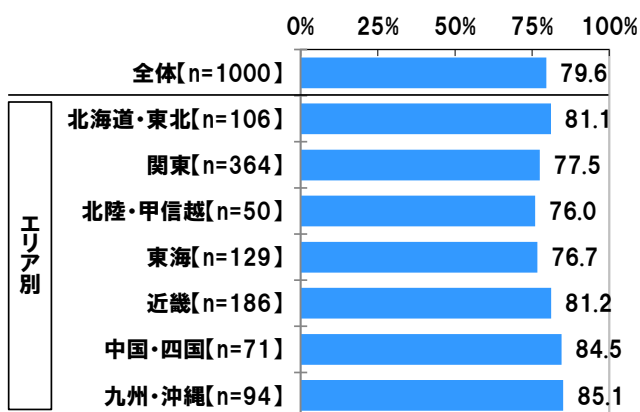
(図31)

◆所得制限のない私立を含む高校の授業料無償化について、  
 育児支援策として有効だと思う親の割合



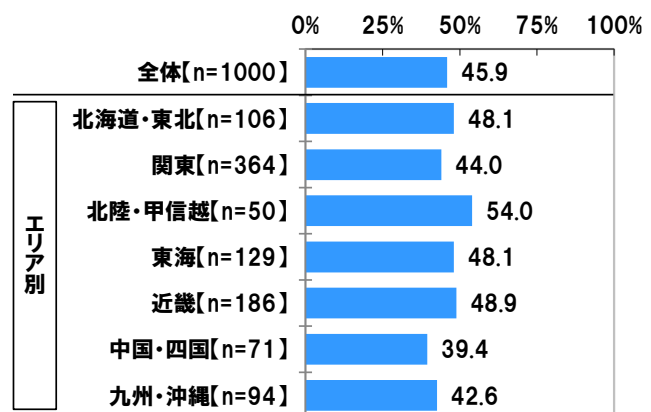
(図32)

◆所得制限のない私立を含む高校の授業料無償化について、  
 全国一律の制度として実施すべきだと思う親の割合



(図33)

◆所得制限のない私立を含む高校の授業料無償化について、  
 税金の使い道として不適切だと思う親の割合



## NEWS LETTER (調査レポート)

- ◆子どもに目指してほしい“理想の大人” 有名人では1位「大谷翔平さん」
- ◆子どもに目指してほしい“理想の大人” アニメキャラでは1位「江戸川コナン」
- ◆子どもに目指してほしい“理想の大人” 歴史上の人物では1位「徳川家康」

全回答者(1,000名)に、自分の子どもに目指してほしい“理想の大人”のイメージに合う有名人やアニメキャラ、歴史上の人物について聞きました。

有名人では、1位「大谷翔平さん」、2位「芦田愛菜さん」、3位「所ジョージさん」となりました。「所ジョージさん」は昨年の5位から上昇しTOP3入りしました(※)。

選んだ理由をみると、1位の「大谷翔平さん」については「競技力も人格も素晴らしいから」や「小さいころからの夢を努力で実現しているから」、2位の「芦田愛菜さん」については「学業と仕事を見事に両立させているから」、3位の「所ジョージさん」については「人生を楽しんでいそうだから」といった回答が挙げられました。(図34)

※子どもの教育資金と学資保険に関する調査 2015 [https://www.sonymlife.co.jp/company/news/26/nr\\_150313.html](https://www.sonymlife.co.jp/company/news/26/nr_150313.html)

子どもの教育資金と学資保険に関する調査 2016 [https://www.sonymlife.co.jp/company/news/27/nr\\_160302.html](https://www.sonymlife.co.jp/company/news/27/nr_160302.html)

子どもの教育資金に関する調査 2017 [https://www.sonymlife.co.jp/company/news/28/nr\\_170314.html](https://www.sonymlife.co.jp/company/news/28/nr_170314.html)

子どもの教育資金に関する調査 2018 [https://www.sonymlife.co.jp/company/news/29/nr\\_180125.html](https://www.sonymlife.co.jp/company/news/29/nr_180125.html)

子どもの教育資金に関する調査 2019 [https://www.sonymlife.co.jp/company/news/30/nr\\_190228.html](https://www.sonymlife.co.jp/company/news/30/nr_190228.html)

子どもの教育資金に関する調査 2020 [https://www.sonymlife.co.jp/company/news/2019/nr\\_200327.html](https://www.sonymlife.co.jp/company/news/2019/nr_200327.html)

子どもの教育資金に関する調査 2021 [https://www.sonymlife.co.jp/company/news/2020/nr\\_210302.html](https://www.sonymlife.co.jp/company/news/2020/nr_210302.html)

子どもの教育資金に関する調査 2022 [https://www.sonymlife.co.jp/company/news/2021/nr\\_220308.html](https://www.sonymlife.co.jp/company/news/2021/nr_220308.html)

子どもの教育資金に関する調査 2023 [https://www.sonymlife.co.jp/company/news/2022/nr\\_230309.html](https://www.sonymlife.co.jp/company/news/2022/nr_230309.html)

(図 34)

- ◆子どもに目指してほしい“理想の大人”のイメージに合う有名人 [自由回答形式] ※上位5位までを抜粋  
 全体[n=1000]

順位	人物名	理由(一部抜粋)
1位 (110名)	大谷翔平	競技力も人格も素晴らしいから (男性・未就学児の親)
		小さいころからの夢を努力で実現しているから (女性・中高生の親)
2位 (67名)	芦田愛菜	学業と仕事を見事に両立させているから (男性・大学生等の親)
		知的で何でもそつなくこなすから (女性・中高生の親)
3位 (13名)	所ジョージ	人生を楽しんでいそうだから (男性・大学生等の親)
		自分のやりたいことを実現しているから (女性・小学生の親)
4位 (11名)	天海祐希	自立して考えもしっかりしているから (男性・未就学児の親)
5位 (10名)	カズレーザー	知的で、しっかりと自分を持っているから (男性・大学生等の親)
	北川景子	凛としていて芯がある女性に見えるから (女性・小学生の親)

## NEWS LETTER (調査レポート)

アニメキャラでは、1位「江戸川コナン(名探偵コナン)」、2位「ドラえもん(ドラえもん)」、3位「モンキー・D・ルフィ(ONE PIECE)」となりました。

選んだ理由をみると、1位の「江戸川コナン」については「賢いだけでなく人の気持ちを思いやる優しさもあるから」、2位の「ドラえもん」については「優しくて頼りになるから」、3位の「モンキー・D・ルフィ」については「冒険心が強く、仲間思いだから」といった回答が挙げられました。(図35)

(図35)

◆子どもに目指してほしい“理想の大人”のイメージに合うアニメキャラ [自由回答形式] ※上位5位までを抜粋  
 全体[n=1000]

順位	人物名	理由(一部抜粋)
1位 (14名)	江戸川コナン (名探偵コナン)	正義感があるから (女性・小学生の親)
		賢いだけでなく人の気持ちを思いやる優しさもあるから (女性・未就学児の親)
2位 (13名)	ドラえもん (ドラえもん)	発想が豊かだから (男性・中高生の親)
		優しくて頼りになるから (女性・小学生の親)
3位 (11名)	モンキー・D・ルフィ (ONE PIECE)	自由だから (男性・中高生の親)
		冒険心が強く、仲間思いだから (女性・中高生の親)
4位 (10名)	フグ田サザエ (サザエさん)	みんなを幸せにする明るさがあるから (女性・中高生の親)
	フグ田マスオ (サザエさん)	真面目で優しいから (女性・大学生等の親)
	孫悟空 (ドラゴンボール)	何も恐れずワクワクする気持ちがあるから (男性・中高生の親)
	竈門炭治郎 (鬼滅の刃)	真っ直ぐで、優しくて、強いから (男性・小学生の親)

歴史上の人物では、1位「徳川家康」、2位「坂本龍馬」、3位「織田信長」となりました。

選んだ理由をみると、1位の「徳川家康」については「大局をみて判断できる才能があるから」や「先見の明があるから」といった回答が挙げられました。(図36)

(図36)

◆子どもに目指してほしい“理想の大人”のイメージに合う歴史上の人物 [自由回答形式] ※上位3位までを抜粋  
 全体[n=1000]

順位	人物名	理由(一部抜粋)
1位 (57名)	徳川家康	大局をみて判断できる才能があるから (男性・小学生の親)
		先見の明があるから (女性・大学生等の親)
2位 (36名)	坂本龍馬	チャレンジ精神があるから (男性・未就学児の親)
		誰も考えなかったことを実現したから (女性・中高生の親)
3位 (31名)	織田信長	野心があるから (男性・未就学児の親)
		リーダーシップがあつてカッコいいから (女性・未就学児の親)

## NEWS LETTER (調査レポート)

◆自分の子どもに就いてほしい職業 男子の親では1位「公務員」2位「会社員」3位「医師」

◆自分の子どもに就いてほしい職業 女子の親では1位「公務員」2位「看護師」3位「医師」

最後に、全回答者(1,000名)に、自分の子どもに就いてほしい職業を聞きました。

男子の親では、1位「公務員」、2位「会社員」、3位「医師」、4位「研究者」、5位「医療関係職(医師、看護師など除く)」となりました。

選んだ理由をみると、1位の「公務員」については「収入が安定しているから」、2位の「会社員」については「本人が希望しているから」、3位の「医師」については「人のためになる仕事だから」といった回答が挙げられました。(図37)

(図37)

◆将来子ども(男子)に就いてほしい職業 [自由回答形式] ※上位5位までを抜粋  
 対象:男子の親

全体[n=500]

順位	職業	理由(一部抜粋)
1位 (85名)	公務員	収入が安定しているから (女性・小学生の親)
2位 (23名)	会社員	本人が希望しているから (男性・大学生等の親)
3位 (22名)	医師	人のためになる仕事だから (女性・小学生の親)
4位 (13名)	研究者	好きなことを突き詰められるから (男性・中高生の親)
5位 (10名)	医療関係職 (医師、看護師など除く)	手に職があるほうが良いから (女性・未就学児の親)

女子の親では、1位「公務員」、2位「看護師」、3位「医師」、4位「会社員」「薬剤師」となりました。

選んだ理由をみると、1位の「公務員」については「収入など安定しており、将来も安心できるから」、2位の「看護師」については「どの場所においても需要がある職業だと思うから」、3位の「医師」については「人の役に立てるから」といった回答が挙げられました。(図38)

(図38)

◆将来子ども(女子)に就いてほしい職業 [自由回答形式] ※上位5位までを抜粋  
 対象:女子の親

全体[n=500]

順位	職業	理由(一部抜粋)
1位 (80名)	公務員	収入など安定しており、将来も安心できるから (男性・小学生の親)
2位 (45名)	看護師	どの場所においても需要がある職業だと思うから (女性・小学生の親)
3位 (29名)	医師	人の役に立てるから (女性・大学生等の親)
4位 (28名)	会社員	安定した職に就いてほしいから (女性・大学生等の親)
	薬剤師	生涯仕事ができる資格だから (男性・大学生等の親)

## NEWS LETTER (調査レポート)

注:本調査レポートの百分率表示は小数点第2位で四捨五入の丸め計算を行っているため、合計しても100%とならない場合がございます。

また、属性別集計において抜粋して表示している場合は、n数を合計しても全体と一致しない場合がございます。

### 《調査概要》

- ◆調査タイトル : 子どもの教育資金に関する調査2024
- ◆調査対象 : ネットエイジアリサーチのモニター会員を母集団とする  
大学生以下の子どもがいる20歳以上の男女
- ◆調査期間 : 2024年1月31日～2月1日
- ◆調査方法 : インターネット調査
- ◆調査地域 : 全国
- ◆有効回答数 : 1,000サンプル(有効回答から各条件がほぼ均等になるように抽出)  
(内訳)親の性別×子の性別×子の通う学校(未就学、小学校、中学校・高校、  
大学・短期大学・専門学校・予備校)で16分割、ほぼ均等割付
- ◆調査協力会社 : ネットエイジア株式会社

### ■■報道関係の皆様へ■■

本ニュースレターの内容の転載にあたりましては、  
「ソニー生命調べ」と付記のうえご使用いただきますよう、お願い申し上げます。

### ■■本調査に関するお問い合わせ窓口■■

ソニー生命保険株式会社 調査広報部 広報課 斎藤、堀島  
電話番号 : 03-5290-6228  
メールアドレス : [press@sonylife.co.jp](mailto:press@sonylife.co.jp)

### ■■会社概要■■

会社名 : ソニー生命保険株式会社  
代表者名 : 代表取締役社長 高橋 薫  
設立 : 1979(昭和54)年8月  
所在地 : 東京都千代田区大手町 1-9-2 大手町フィナンシャルシティ グランキューブ  
業務内容 : 生命保険業